

東京海上ウエスト少額短期保険 山下翼新社長インタビュー

グループ内の存在感高める

連携強化図りさらなる業績拡大へ

東京海上ウエスト少額短期保険(ウエスト少短)は、4月1日付で山下翼氏が新社長に就任した。同社は東京海上グループの少短事業会社である東京海上ミレア少額短期保険(ミレア少短)と連携し、西日本を中心に不動産チャネルに特化した賃貸入居者向け火災保険を販売しており、業績は着成長を維持している。「東京海上グループ内の存在感を高めることで連携を強化し、さらなる業績拡大を図りたい」と語る山下社長に今後の計画や抱負などについて聞いた。

——社長に就任した際の感想・抱負を。

山下 私は1997年に東京海上日動に入社し、これまで「ソナル営業、ディーラー営業、コマシャール(大企業)営業」を経験してきた。直近は東京海上日動鹿児島支店で八

——ソナル営業を担当していたが、その中で約5年間にわたり、ウエスト少短と連携して賃貸住宅マーケットを担当していたことから、今回の社長就任は、なしみがある会社というところで縁を感じている。個人的な意見だが、賃貸住宅マーケットにおける少短ビジネスの認知度は、まだまだ高められると思うっており、成長性

のあるビジネスに携われることをうれしく思っている。

——業界に対する現状認識について。

山下 業界全体の保有契約件数と収入保険料は共に着成長しており、新規参入する業者も増えていることから、順調に拡大していると感じている。一方で、業者数は今後も増加することが想定されるため、競争は激化することが予想される。

——今年度の重点施策は。

山下 今年度は従来の路線を踏襲しつつ、ミレア少短と共に東京海上グループ内の存在感を高めていきたいと考えている。東京海上日動では、

生損一体、営損一体、グループシナジーといったビジネスモデルを目指す方針が示されていることから、それを当社でも思い直していくことに尽きる。また、私はさまざまな営業部門を経験し、そこで身に付けたノウハウがあることから、チャネル

——課題として捉えていることは。

山下 昨年5月末に改正保険法が施行され、情報提供などが適切・確実に履行できる仕組みづくりに着手していきたくは。

——社員に求めることは。

山下 社長就任時に社員に発信したことが、①常にスピード感を持って行動する②常に結果を思いやる③常にメンバーの3点だ。一つ目の「スピード感」については、先手先手で動くことでチャンスを早期に捉えることができる。二つ目の「結果」については、リスクを最小化することができ、仮に誤ったプロセスを踏んでも修正できる余地が生まれる。自分自身も意識して行動してきたことである。

——今後の計画や目標は。

山下 東京海上グループと同様に、当社も2017年度が3力年の中期経営計画の最終年度となる。これまでに当社はミレア少短と連携して事業展開してきたことである。業務品質向上に加えて、事故削減の取り組みにも注力していきたいと考えている。実際に、賃貸住宅の水漏れ事故を防止するために注意喚起チラシを作成したり、代理店向けに研修会なども実施している。保険金による安心と、未然の事故防止に心が、未然の事故防止による安全の提供を両輪でやっていきたい。

——座右の銘、仕事をやる上でのモットーは。

山下 仕事をやる上でのモットーは、社員に求めている3点を自分自身にも求めていることから、常に意識して仕事している。座右の銘は「艱難(かんなん)汝を玉にす」。これまで私が出会った人の中で、苦労や経験を重ねてきた人は多い。その点、私はまだまだ未熟者のため、自分への戒めだと思つてこの言葉を座右の銘にしている。

業務品質向上に加え事故削減にも注力

——業務品質向上に加えて事故削減にも注力

——業務品質向上に加えて事故削減にも注力

——業務品質向上に加えて事故削減にも注力

——業務品質向上に加えて事故削減にも注力

——業務品質向上に加えて事故削減にも注力

——業務品質向上に加えて事故削減にも注力

——業務品質向上に加えて事故削減にも注力



山下社長

——今年度の重点施策は。

山下 今年度は従来の路線を踏襲しつつ、ミレア少短と共に東京海上グループ内の存在感を高めていきたいと考えている。東京海上日動では、

生損一体、営損一体、グループシナジーといったビジネスモデルを目指す方針が示されていることから、それを当社でも思い直していくことに尽きる。また、私はさまざまな営業部門を経験し、そこで身に付けたノウハウがあることから、チャネル

——課題として捉えていることは。

山下 昨年5月末に改正保険法が施行され、情報提供などが適切・確実に履行できる仕組みづくりに着手していきたくは。

——社員に求めることは。

山下 社長就任時に社員に発信したことが、①常にスピード感を持って行動する②常に結果を思いやる③常にメンバーの3点だ。一つ目の「スピード感」については、先手先手で動くことでチャンスを早期に捉えることができる。二つ目の「結果」については、リスクを最小化することができ、仮に誤ったプロセスを踏んでも修正できる余地が生まれる。自分自身も意識して行動してきたことである。

——今後の計画や目標は。

山下 東京海上グループと同様に、当社も2017年度が3力年の中期経営計画の最終年度となる。これまでに当社はミレア少短と連携して事業展開してきたことである。業務品質向上に加えて、事故削減の取り組みにも注力していきたいと考えている。実際に、賃貸住宅の水漏れ事故を防止するために注意喚起チラシを作成したり、代理店向けに研修会なども実施している。保険金による安心と、未然の事故防止に心が、未然の事故防止による安全の提供を両輪でやっていきたい。

——座右の銘、仕事をやる上でのモットーは。

山下 仕事をやる上でのモットーは、社員に求めている3点を自分自身にも求めていることから、常に意識して仕事している。座右の銘は「艱難(かんなん)汝を玉にす」。これまで私が出会った人の中で、苦労や経験を重ねてきた人は多い。その点、私はまだまだ未熟者のため、自分への戒めだと思つてこの言葉を座右の銘にしている。

——業務品質向上に加えて事故削減にも注力

——業務品質向上に加えて事故削減にも注力